

第60回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会 新潟大会参加報告

I 研究主題

「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」＜第11期全国統一研究主題＞
～主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり（3年次）～

II 研究主題設定の意義

「研究の継続性」「組織研究としての協働性」「学校経営における教頭の関与性」について教育実践を持ち寄り、成果と課題を共有し、協議し学び合うことで、教頭としての資質や能力を高めることを目標としている。

III 研究大会の概要

令和元年11月7日から8日の2日間にわたり、新潟県新潟市の新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）を主会場に開催された。今大会には、1都8県から1,500名を超える参加者があった。山梨からは本部役員及び支部代表の総勢33名が県代表として参加した。

1日目には、開会行事が行われ、新潟県知事代理、新潟市長、全国公立学校教頭会会長等多くの方を来賓として迎え行われた。新潟大会研究部長は、「行き先が不透明で変化の激しいこれからの社会を生き抜く子どもたちに求められることは、他者に共感できる感性をもつこと、思いやりをもって多様性を受容すること、自分の個性を生かしながら自ら考え行動し他者と協働しながら新しいものを生み出すことだ。厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、未来を切り拓く力をもった子どもを育む必要がある」と基調提案の中で述べられた。続いて、沼澤茂美氏（日本プラネタリウムラボラトリーINC.代表取締役）を講師に、「驚異の天体現象～人生観を変える～」を演題に記念講演が行われた。沼澤氏は、NHKの科学番組制作、自ら立ち上げ今年で35周年を迎える「胎内星まつり」の運営、天体写真・宇宙関連のイラストレーションの作品発表、書籍への執筆活動等を精力的に行っている。ご自身の幼少時代から現在に至るまでの絵や天文にまつわる様々なお話と、講演の中で紹介された天体写真、宇宙を描いたイラストレーションは、教育者としての感性の大切さを訴えるものであった。

2日目には、8つの分科会課題（12分科会）において、副校長・教頭の職務内容に焦点を当てた研究協議が行われた。第2B分科会「子どもの発達に関する課題」においては、石川忠史先生（甲府市立上条中学校）が提言者として「確かな学力の定着に向けた実践を見直し改善することを通し、学校運営における教頭の役割を探り、効果的な関わり方を明らかにする取組」について発表し、助言者や参加者から高く評価された。また、東山梨支部からは、第4A分科会に中村裕司先生（塩山南小学校）、第5B分科会に三枝敏明先生（山梨北中学校）が参加され、還流報告書の作成に至るまで多大なご尽力をいただいた。

IV 研究大会の成果

私たちは、「変化の激しい現代を生きる力」を子どもたちに身に付けさせるために、子どもたちと向き合いながら日々の実践を重ねている。容易ではないその道を切り開くために多くのヒントや示唆が得られた研究大会であった。その内容は、「学校間連携」「社会に開かれた教育課程」「キャリア教育」「施設・設備・事務」「子どもの発達」「防災教育」「業務改善」「PTA及び地域社会」「教職員の専門性」「人材育成」等多岐にわたる。貴重な経験をさせていただいた関係各位に感謝申し上げますとともに、研究の成果を今後の職務に生かせるよう鋭意努力したい。（県教頭会副幹事長 中村 直人）